

小ギク「常陸サマーライト」は電照栽培で8月旧盆需要期に開花する			
[要約] 「常陸サマーライト」は、自然日長下の開花期が7月下旬から8月上旬であるが、電照栽培を行うことで8月旧盆需要期に開花する。また、電照栽培では切り花長が長くなることから、上位階級の生産が可能になる。			
茨城県農業総合センター園芸研究所	平成29年度	成果 区分	普及

1. 背景・ねらい

県育成の小ギク新品種「常陸サマーライト」は、季咲き栽培での開花期が7月下旬から8月上旬であり、8月旧盆の需要期に対して、やや開花期が早い。そこで、高値である8月上旬に開花させるための、電照技術を開発する。

2. 成果の内容・特徴

- 1) 摘芯後の到花日数は、自然日長区が89日、電照区が98日で、電照による開花調節の効果が認められる(表1)。
- 2) 所内における開花の盛期(平成29年)は、自然日長区が7月28日、電照区が8月7日で、電照区で8月旧盆需要期の出荷に適する(表1)。
- 3) 自然日長区と比較し、電照区では切り花長が長くなる(表1)。フラワーフォーメーションは同等で、電照による花房形状の乱れは認められない。
- 4) 現地における開花の盛期(平成28年)は、電照を行った小美玉市が8月9日で需要期出荷に適する(表2)。自然日長区では、笠間市が7月17日、石岡市が7月22日、牛久市が7月15日で、需要期に対して早い。

3. 成果の活用面・留意点

- 1) 小ギクの開花期は、冬季の低温履歴や本圃での栽培環境(気温など)の影響を受けるため、電照栽培における消灯日は、本成果を参考に決定する。
- 2) 電照により、花蕾直下の葉の形状が若干変化するが、販売上の問題はない。
- 3) 「常陸サマーライト」は、平成29年9月に出願公表されている。
- 4) 普及地域・目標: 小ギク主要6産地、全てに導入。

4. 具体的データ

表1 所内における電照が「常陸サマーライト」の開花と切り花形質に及ぼす影響¹⁾ (平成29年)

試験区名	切り花長 (cm)	切り花重 (g)	発蕾日 (月/日)	摘芯後の 到花日数	開花日 ²⁾ (月/日)			FF ³⁾
					始	盛	終	
電照区	112	138	6/30	98	8/5	8/7	8/11	A
自然日長区	92	93	6/26	89	7/25	7/28	8/3	A

¹⁾ 栽培概要は、定植4月26日、摘芯5月2日。電照は白熱電球を用い、4月26日から6月14日(22時~2時)の期間に行った。

²⁾ 「改訂版花の切り前」(誠文堂新光社、H6)のステージ1を、開花として調査した。開花日は全茎の10%が開花に到った月日を始、最頻値を盛、90%を終とした。

³⁾ フラワーフォーメーションは、右図による分類。

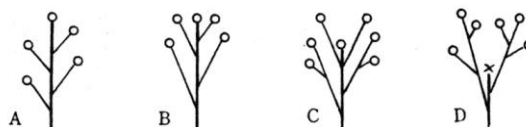


表2 現地における電照が「常陸サマーライト」の開花と切り花形質に及ぼす影響 (平成28年)

試験区名	試験地	切り花長 (cm)	切り花重 (g)	開花日 (月/日) ¹⁾			栽培概要		
				始	盛	終	定植日	摘芯日	電照期間
電照区	小美玉市下吉影	104	58	8/3	8/9	8/9	4/30	5/8	5/1~6/22
	笠間市鴻巣	72	62	7/14	7/17	7/25	4/16	4/25	—
自然日長区	石岡市三村	86	60	7/16	7/22	7/27	4/26	5/1	—
	牛久市小坂町	86	58	7/8	7/15	7/23	4/22	5/1	—

¹⁾ 「改訂版花の切り前」(誠文堂新光社、H6)のステージ1を、開花として調査した。

5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

新品種育成普及促進事業・平成28~平成29年度・花き研究室